



★リニューアル★

桂林市中医医院から

こんにちは！ No.8

2007.10

活動開始 15ヶ月目は 1 週間の大型連休に始まり、家族の任地訪問、日本では感じることの出来ない国境旅行などなど、あっという間に過ぎていった。桂林の花『桂花（キンモクセイ）』もいっせいに開き、街中、緑の葉の間からちっちゃな黄色い花が香りを放つ。観光シーズンも最後の盛り上がり、そしてしばし休憩に入る。

## 家族の見た中国

中国の連休明け、ベイ家族が日本からやって来た。母以外は初の海外旅行、ツアーで来るとは言えホテルで顔を見るまでは落ち着かなかった。4泊5日、前後1日は移動日で実質3日間のバタバタ旅行、ベイの見せたいものを詰め込んだ3日間…はい、いろいろアリマシタ。最近、なんだかんだ言っても中国人化してきていると感じるベイ。ベイが家族を通して感じた『日本人の見る中国』とは…。

待ちに待った家族との再会、日本では1人暮らしをしていたものの、1年3ヶ月も会わないなんてことはなかった。「よく来たね」と抱き合った母が小さく感じた。…というのも束の間、4人から一気に中国の感想があふれ出す。成田から中国の南・広州を經由して桂林まで約6時間の旅。初めて降り立った中国は広州、そこで乗換えまでの数時間を過ごしたらしいのだが、すでに強烈な印象を受けていた。広州と言えば、桂林の若者にとって北京や上海に次ぐ憧れの土地。都市化が進み、東京を感じさせるところさえある。「中国もあんなに大きなビルが建ち並んでるんだな。でも、その間には壊れそうな小屋みたいな街並みをあって、まるで30年前の日本みたいだった。」これは伯父の言葉。伯父は鋭い…そう、中国の各地で都市化が進んでいるが、北京・上海にしる広州にしる、凜と建ち誇るビル街の間に時代に取り残されたような古い街並みがあるのだ。オリンピック開催まで300日をきった北京でさえ貧困地域が残る、これが中国なのだ。…などなど、疲れているだろうにも関わらず、話は尽きなかった。。

さて、桂林1日目はベイの活動している病院を案内、ベイが会ったことのない幹部まで現れ家族に挨拶（汗）。家族は中国語のシャワーを浴びることに♪翌2日目は車をチャーターして出かけることに。中国は右側通行、ベイも来て間もない頃はすれ違う車さえ怖かったもの。家族も「足に力が入るわぁ」と嘆いていた…その時だ、出発早々軽い追突事故。（写真：前がベイたちの乗っていた車）信号、車線はあってないようなもの。隙間があれば車はどこからでも入り込んでくるし、人だって隙があればどんどん横断してくる。この時も老人が道に現れ、普段なら運転手も止まらないだろうに、日本人を乗せていることを意識したのか停車、で、ドンッと後ろから。助手席に乗っていたベイはとんでもないことになってしまったのではないかと後ろを向くことに冷や冷や。（幸い家族みんなに大きなケガはなかった。ホッ。）運転手はため息をついて降りて行き、追突したトラックの運転手と口論。事故車は道の真ん中に止まったまま。公安（警察）の車が通り過ぎるも、公安はお構いなし。むしろ、お陰でできた渋滞にイライラさえしていたのでは？「運転手、大丈夫とか声かけてきたの？」と母。答えはNO。運転手は会社名の入った車とは言えたぶん自分持ちの車、その損害を被ったことに必死ですから。そんな交通事情や社会事情を集約したような事故だった。願うは、この運転手が今回の損害のために停まろうとした心をなくしてしまわないこと。。。続く3日目は水墨画の世界と言われる桂林でベイが一番お気に入りのスポットへ。この日は、日ごろ世話になっている看護師とプライベートで仲良くしてもらっているその彼も同行し、にぎやかな道中となった。この彼、何やら我が兄をとっても気に入ったようで、兄の後ばかりついて歩いていた。学生時代、中国語を学んだ兄だが、すっかり忘れてしまったようで。ただ、日本と中国、やっぱり漢字を書くことで通じ合えるのね。記憶を掘り起こして紙に書き「これで分かるかな？」と言う兄とそれを解読して必死に答えようとする彼、この2人を見ていて交流ってこれだな、日本にいては誤解してしまいがちな中国人ともこうして通じ合えるじゃない！と改めて感じた。さて、ここまでくると旅も終わりが近づき、お土産探しへ。4人分のお土産を値切るベイ、何度も値切るとなぜか罪悪感を感じてしまい。。。ま、それでも儲けはあるのだからよしとして。ここで困ったのが、それぞれの会社へのお土産になる数量の多いもの。お菓子や食べ物でいいじゃない？と思っていたベイに「今は中国のものは誰も食べない。」と言う父。はぁ、、そうか。「私はそれをいつも食べて生きてるんですけど？」って言うのは見たものの、実際、安全であるとは言えない食べ物もあることとそれが全てではないという葛藤を抱きながら、報道の影響を改めて感じたときであった。



翌朝、家族全員、元気に帰路についた。ベイは祭りのあとの淋しさを感じながら、あと9ヶ月頑張ることを誓った。

# 越えられない国境・・・ ～中国・ベトナム国境で～

我々協力隊は公用パスポートを所有しているため、国境を越えての自由な移動は制限されている。中国隊員で言えば、モンゴル・ネパール・タイ・フィリピンであり、桂林の属する広西チワン族自治区の南はベトナムと接しているが、ベトナムには渡れないのだ。そう、『越えられない国境』なのだ。

数ヶ月前、カンボジアに派遣されている同期隊員とのメールで国境の話になった。国境のない島国・日本で生まれ育った私たち。国境ってどんなだろう？人間には到底達することの出来ないような壁が天果てしなく立てられているわけでもないのに、そこを越えられないとはどういうことだろう？ただ1本の線なのに。かつて、韓国北朝鮮や東西ドイツの人たちの感じた国境とはなんだっただろう？そのわずかでも感じるべく、幸いカンボジア隊員はベトナムに渡ることが許されているため、中国ーベトナム国境で会おう！という計画を立てた。



写真中央に見える橋が両国のイミグレーションをつなぐ橋で、その左側がベトナム、右側が中国だ。当日はベトナム時間の朝8時にこの橋の付近で…と約束をしていた。たどり着くと、対岸で大きく手を振る人がいる…が、そこはいるはずのないイミグレーションの中。でも、彼女らに間違いはなかった。ベトナム隊員が付き添ってくれたお陰で、係りの人(かなりお偉いさんだったとか)に頼み込んだらしい。相当苦労して頼み込んだのだろうが、我々の道楽とも思われかねないこの計画を理解してくれた(?)ことに感謝したい。

ベイの実際は…と言えば、分かっていたつもりのことを理解することにかかなりの時間を要していた。写真のように船も往来する川で、ベイが泳いだって渡ってしまえるような川、橋だってある。それなのに、お金を払ったって今は渡れない。無理に渡ったら命に関わることにだってなりかねない。対岸にいる友と手をとる距離で会いたいのにはできない。対岸に見える土地なのにそこには朝8時の時間が流れ、こちらは朝9時の時間が流れている。これが『国境』なのか。そう思ったときにはもう対岸に彼女らの姿を見ることは出来なかった。10分間足らずのできごとであった。

## ベイの活動報告書



『お金の切れ目が入院の切れ目』これが現実のここ中国で、退院する患者さんを見送ることが耐え難いこともある。そんな患者さんにも回復するという元気をなくして欲しくない、また、その後の生活を少しでも笑顔で過ごして欲しい、その思いをこめて作っているのがコレ。

患者さんそれぞれの生活上の注意や自主トレの方法、家族へ患者さんの障害の説明などを盛り込む。絵心のないベイができる限りの絵を描き、思いを中国語にしていく。この作業が大変なのだが、手渡した患者さんは、ぽか～ん。なぜこんなものを渡させるのかが分からないといった感じ。苦労の甲斐なく粗末に扱われてしまうこともあるのだが、、いつか役に立つときがあれば。そう思って今日も折り紙にはさみを入れるのだ。

《おまけ》この上下の角にある折り紙、『ひと裁ち折り』と言って折り紙を折ってはさみでひと裁ち、広げるとこんなカワイイものが出来上がる♪最近のお気に入りだ。

## ～伝統運動療法～

先日、中国民間療法『伝統運動療法』の本を見つけた。今後はその中からいくつかをご紹介します。

### ● 膨祖明目法 ●

症状：かすみ目

地に座り、両手を背に反して置く。伸ばした左足の上に右足を曲げてのせ左足を押す。肺から呼吸するようにし5回行う。数日続けると夜でも昼間のように見えるようになる。



編集後記

## ベイの嘆き

国境から帰ると、桂林はグンと寒くなっていた。白衣も長袖へ衣替え。さ、耐え難い冬がもうそこまで来ているぞ。そんな今日、すでにシモヤケの兆しが…。日々、こんなに唐辛子を食べているのに一向に治らない冷え性。小さい頃、シモヤケのひどかったベイは、靴下に唐辛子を入れて寝ていたこともあった、、民間療法です。よくなったという記憶はありませんがね。さて、今年はどう対策しよう。。(ベイ)